

地域のイノベーションは、  
前向きな行動から。  
関大の自由な活気が  
チャレンジを  
支えてくれている。



堺市役所東京事務所  
(※2023年3月当時)

たのうえ しょうた

田上 翔大さん

経済学部 2013年卒

## 市役所の仕事は総合サービス。やるべきことは山ほどあります。

私は現在、堺市役所の公務員として働いています。東京事務所という部署に所属しており、首都圏における堺市の魅力の発信や、さまざまな企業の皆さまとの交流を通じて、市の課題解決に向けた事業連携や企業誘致などを目標に仕事をしています。実は新卒時には大手の金融機関に就職したのですが、全国転勤が必須で、やはり大阪、そして堺がいいなという思いと、地域への貢献として行政的な仕事にも関心があった堺市役所に転職しました。

最初に配属されたのは待機児童の解消施策に携わる部署で、比較的忙しい環境でした。「新しいことをやっていかな後退してるのと一緒や!」という上司のもと、常に前向きに仕事に取り組むことや、それが形になる楽しさを学べたと思います。市役所という窓口業務を連想する

方も多いと思いますが、それだけではありません。前の部署では、他の部署や関連事業者さまとの調整、視察などで、座っている時間は少なかったですね。そして今の東京事務所では、堺市ゆかりの方や民間企業の皆さまを訪ねるなど、外での活動が多い気がします。

堺市は、「堺からイノベーションを」という目標を掲げています。東京の大学発ベンチャーやスタートアップ企業などに実証実験の場を提供したり、逆に「堺市の課題と御社のソリューションはマッチするんじゃないでしょうか」といった提案をさせていただいたりして、交流を広げられました。最終的には企業誘致に結びつけていきたいのですが、まずは堺市でビジネスをやってもらいたい、選択肢として堺市もあるよねとっていただきたいと考えてやってきました。

## コロナ禍での東京勤務で、「繋がり」を作りあげた。

東京への赴任はコロナ禍の最中で、3年しかない東京生活で早く成果を出さないと、「東京に遊びにただけちゃうか」なんて思われるのがすごく嫌でした。でも前の上司が言っていたように、「どんな状況でも絶対やるべきこととか、やらなあかんことはある」はずなので、コロナ禍だからできること、やるべきことがあるはずだと思っていました。

そこで手掛けた一例が、堺市に専門の美術館があるチェコ共和国出身の画家アルフォンス・ミュシャの企画です。東京でも、その認知度を上げるにはどうしたら良いかと考え、思いついたのが「東京駅のデジタル

サイネージ55面をジャックする」という事業でした。当時はコロナ禍の真っ最中でリアルイベントは難しい時期でしたが、東京駅なら人がいるだろうと思ったのです。

ただ我々に映像を作る力はありません。そこで以前、堺市本庁が関西大学にミュシャの映像的なものを作ってもらったことを思い出して、新たに東京駅用の映像制作について相談しました。進めていくうちにだんだん関係者も増えてきて調整は大変でしたが、皆さまからの多大なお力添えのおかげで実現することができました。

また私自身も、見に行くだけより当事者が楽しい、という思いをもっていました。皆さまを巻き込むように話を進めていくなかで、チェコの方からもこういうPRをやりたいたいといった話が出てきたり、各々が「面白いことは何でもやっていきましょう」みたいな感じで広げられたんじゃないかなと思っています。おかげさまで屋外ビジョンでの映像放映やカフェでの展示や物販、限定メニュー提供や



コンサート開催など、魅力を広く発信することができました。

そしてイベントを通じて市をPRできたりSNSのフォロワー数が増えたりといった効果にくわえ、関わってくださった方々と一緒にやれた「繋がり」は、非常に大きな収穫だったと思います。この繋がりがあれば、今後も「何かやりたい!」となった際には、また面白そうなお話ができるんじゃないかと期待しています。

実はこの三月で堺市に戻るのですが、東京の人や物、情報のすごさを感じることができたのは、とても良い経験だったと思います。今後どういう部署に行くかは分かりませんが、企業さまや民間の人たちとの交流を通じてのご縁や知見を、市民生活や地域サービスの向上に活かしていきたいと思っています。

## ワイワイと気取りのない楽しさ。関大らしさは、自分らしさでもあった。

高校時代、ちょうど志望校選びで迷っていた頃に関大の学祭に行ったのですが、いい意味でワイワイしていて気取らないイメージで、僕に合いそうやなって勝手に思いました。その楽しそうな様子や大学前の街並みに惹かれたのが、いちばんの理由です。また進路について悩んでいるとき、好きな先生から「あんたは他じゃなくて関大やろ」というふうに言われて、自分のなかでもしっくりきた感じです。

入学して自分が学祭に参加するようになったときは、仲の良い友人とサークルを立ち上げました。飲み会や旅行などが中心の集まりでしたが、学祭ではおそろいのTシャツを販売して結構な売上をあげたり、それぞれ友達を呼び集めてきたりと盛り上がった記憶があります。恥ずかしながら何か特別なことや努力をしていたわけではありませんが、出会っ

た友達と遊ぶことには全力だったと思います。だから関西大学は大好きな場所でした。

座右の銘を聞かれると「いつでも前向きに!」と答えるようにしています。物事は前向きにやると面白い方向に動かし、楽しいというのをすごく感じたので。そこには、関大でいろいろなことができたというのが繋がっていると思うんですよ。大学の友達は同じように会社に入って同じように悩んでというところがあって、そして今でもめっちゃ仲良く。私が転職しようが失敗しようが、あの仲間たちとなら笑い話になる。「帰るべき場所」じゃないですけど、そういう部分は大きいかなという気がします。

## 後輩たちに——「やりたいことをやる」が最短ルートになる。

多くの人にとって、大学時代は人生のなかで最も自由な時間ではないかなと思います。楽しいことも苦しいことも、将来の自分に大きな影響を与える時期ではないでしょうか。皆さんも、後悔のない最高の大学生活を過ごしてください。そしてたくさんの人と知り合って、一生ものの友達を作ってください。社会人になっても、必ずその経験や出会いが自分を助けてくれると思います。

全力で大学生活を楽しんだので後悔はありませんが、今になるとあれもやっておけば、と思うこともあります。たとえば留学しておくのもよかったかな、とか。関大での時間が楽しくて結局は行かなかったのですが、もっといろいろな人と喋ったり、ものを見たりしておけば、より視野が広がったんじゃないかな、というのはあります。

何かにチャレンジするのは大変なことだと思いますし、今の環境で過ごしていくのも良いでしょう。でも今にしがみつくと、いろいろなことに手を伸ばして欲しいなと思いますね。私が最初入った会社は金融

系で、その次は市役所。まさか自分が公務員になるとは想像していませんでしたが、今はとてもやりがいを感じていて、日々楽しく仕事をさせてもらっています。転職も遠回りではなく、自分にとっては最短ルートだったんだと思います。



私にとっての関西大学は、心のよりどころというか、自分を作っているめっちゃでかい柱やなと思っています。地元と高校、大学と社会人の四本のなかでも、すごく自由で何でもできた大学での四年間は、自分のなかの大きな柱の一本ですね。

## 「あなたにとって関西大学とは？」

大学時代の出会いや経験が、今の自分を作っているんだと思います。楽しかったな、懐かしいな、そろそろ行かなあかんのかなか思ったりします。今も忘年会は毎年やりますし、めっちゃ仲良かった数人とは、二カ月に一、二回ゴルフをしたり飲みに行ったりしていますね。



### 関西大学東京センター

100-0005 東京都千代田区丸の内1-7-12 サビアタワー9階  
TEL: (03) 3211-1670 (代) FAX: (03) 3211-1671  
<https://www.kansai-u.ac.jp/tokyo/>



公式 website



公式 Facebook



公式 Twitter



LINE スタンプ



LINE スタンプ  
(関大ライブ編)